

つながる力

《No. 22》



土砂全協第9回総会

5月29日 オンラインで開催



今年度もコロナ感染拡大のため、辺野古土砂全協第9回総会はやむを得ずオンラインで開催することとなりました。

発足からはや7年が経ち、新たな住民団体も参加され合計21団体が加盟。うち、総会には12団体、総勢37名が出席しました。総会

は正会員21団体から12団体が出席し成立。約3時間にわたり活発な議論を交わし、2022年度活動方針等を承認しました。

《 目 次 》

辺野古土砂全協第9回総会報告	松本宣崇	2~5
安波棧橋・塩川港大行動 力合わせ2400台のダンプを減少	宗吉 信	6~7
《沖縄県本部町》 私たちは負けない!諦めない!	原田みき子	8
安波棧橋・塩川港 大行動2022 御礼と報告		9
《沖縄県南風原町》 復帰50年・・・戦争の呪縛から抜け出せない沖縄	赤嶺一子	10~11
《東京都》 6月23日 平和の礎にて	毛利孝雄	12
「南部遺骨土砂」自治体意見書採択の現状	ガマフヤーを支援する会HP	13
愛媛県内2町で「遺骨混じりの土砂採取反対」意見書採択	立田卓也 塩川まゆみ	14
《愛媛県》 東アジアで戦争を呼ぶのは誰か	高井弘之	15
6.20~27 沖縄訪問記	阿部悦子	16~17
「ノーモア沖縄戦 命どう宝の会」発足 参加のお願い		18
《沖縄からの便り その16》 県知事選勝利へ!!	浦島悦子	19
インフォメーション		20

写真提供 末田一秀 新田秀樹 宗吉 信 毛利孝雄 阿部悦子



辺野古土砂全協第9回総会報告



辺野古土砂全協事務局長 松本宣崇

第9回総会は今回リモート開催を余儀なくされました。紙面の都合、総会で承認された2022年度活動方針、2021年度決算並びに2022年度予算案、そして先年から改正の検討を進めてきた規約の改正条項、任期満了に伴い承認された2022～23年度役員体制を報告します。

1 2022年度活動方針

**1. 遺骨混じりの土砂を埋め立てに使わせない
一さらに世論をたかめよう。公害等調整委員会
を注目しよう。**

国の沖縄島南部の遺骨混じり土砂の辺野古への搬出計画については、多くの地方自治体が反対の意向（注参照）を示しているが、政府はこの方針を撤回する構えを見せていない。そのためさらに広く他の自治体でも請願・陳情を行う必要がある。成功した自治体がどのように運動を行ったか等を情報交換することで広げていきたい。

遺骨問題をめぐって県が出した指導に対して、開発業者が国の公害等調整委員会に不服申し立てを行い、現在公害調停委員会の審査中である。委員会の傍聴や意見表明などを行っていく。

**2. 各地の土砂搬出地の監視を怠らないで一ど
こにも基地を造らせない**

いつまた本土各地の土砂が狙われるかも知れない。各地の諸団体との連携強化を図るとともに、可能な地域では特定外来種調査をすすめよう。万が一、西日本各地の採石場が再浮上しても、即応できる態勢を整えておこう。

3. 玉城沖縄県知事を支えよう

9月には県知事選挙が控える。玉城デニー知事は、辺野古新基地建設に抵抗する沖縄の人たちのシンボルでもある。それだけに政府にとっては脅威を排除したい考えは強い。知事を支えるための要請には積極的に応えよう。

4. 現地のたたかいを支えよう

日常的に抗議を続ける沖縄の人たちを支えるために、安和棧橋、塩川港、辺野古に行こう。

5. 団体との政府交渉を継続していこう

昨年4月に4団体連携による対政府交渉を持った。今後の展開に合わせ積極的に他団体との協力をすすめ辺野古新基地断念を手にしよう。

6. 沖縄県土砂条例改正陳情をつづけよう

防衛省が本土から沖縄での土砂調達にシフトした背景には、沖縄県の土砂条例がある。「命令規定」「特定以外の外来種対象」などを加えた、同条例強化に向けた取り組みをつづけよう。

**7. 辺野古を取り巻く社会情勢について、学習
と発信をしよう。**

日米政府は与那国、石垣、宮古、沖縄島、奄美、馬毛島の島々にミサイル基地や自衛隊駐屯地を配備し、「台湾有事」を口実に戦争準備を進めている。戦争が起きれば種子島以南の「南西諸島」が真っ先に戦場になる。日本を再び戦争国家にしないために「ノーモア沖縄戦」の思いを全国に発信し、学習会などに取り組もう。



2 2021年度収支決算報告並びに2022年度予算案

以下の通り、2021年度決算並びに2022年度予算案は承認されました。

辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会 第7期(2021.4.1～2022.3.31)予算及び決算 並びに次期、第8期(2022.4.1～2023.3.31)予算案

	勘定科目	補助科目	第7期		第8期予算
			予算	決算	
収 入	前期繰越		1,259,516	1,259,516	1,546,396
	会費		1,000,000	1,092,000	1,300,000
		団体年会費	100,000	90,000	100,000
		個人年会費	900,000	1,002,000	900,000
		総会参加費等	0	0	300,000
	事業収入		20,000	0	0
		辺野古冊子販売	10,000	0	0
		集会シンボ等	10,000	0	0
	寄付・カンパ		900,000	1,385,030	900,000
	雑収入		10	3,413	15
	雑収入	0	3,399	0	
	受取利息	10	14	15	
辺野古基金助成		0	0	0	
合 計			3,179,526	3,739,959	3,746,411

支 出	外注費		10,000	0	0
	機関紙費		1,025,000	975,104	1,025,000
		封筒・振替用紙	65,000	14,300	65,000
		印刷費	600,000	648,593	600,000
		発送費	360,000	312,211	360,000
	会議費		100,000	10,000	350,000
		総会費	0	10,000	250,000
		役員会	50,000	0	50,000
		集会開催費	50,000	0	50,000
	旅費交通費		500,000	362,159	500,000
通信費		15,000	14,513	15,000	
事務消耗品費		10,000	184,623	10,000	
新聞図書費		0	6,450	3,000	
支払手数料		3,000	4,432	4,000	
雑費		10,000	17,802	10,000	
事務費		600,000	600,000	600,000	
振替通知料金		20,000	18,480	20,000	
合 計			2,293,000	2,193,563	2,537,000
当期残高(次期繰越金)			886,526	1,546,396	1,209,411

監 査 報 告

辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会第7期(2021年度)会計を厳正に監査したところ、帳票書類等正確かつ適正に処理されていることを認めます。

監 査 五 寶 光 基



監 査 土 居 立 子



3 辺野古土砂全協規約改正について

第9回総会において、土砂全協の規約を下記の通り、改正しました。

今総会における主な改正条項に関する現行規約と改正案の対比表をご覧ください。

現行規約	改正案
<p>(名称) 第1条 本協議会は、「辺野古土砂搬出反対」全国連絡協議会(以下、「協議会」という)という。 (構成・届出) 第4条 協議会の会員は、搬出地の団体と、会の目的に賛同する協力団体及び個人で構成する。</p> <p>(役員及び職務) 第6条 協議会に次の役員を置く。 (1) 顧問…若干名 (2) 共同代表…若干名 (3) 役員…若干名 (4) 事務局…事務局長…1人 事務局次長…1人 人 財政…2名以内 (5) 会計監査…2名 (役員を選出) 第8条 役員を選出は、総会において、出席者の互選によって行う。 (総会) 第9条 2 通常総会は、毎年1回以上開催し、事業報告・決算、事業計画・予算、規約改正や重要事項を審議、決定する。</p> <p>(総会の議決方法等) 第10条 総会は、会員現在数の過半数の出席がなければ開くことができない。 2 やむを得ない理由により総会に出席できない会員は、書面又は、代理人をもって議決権を行使することが出来る。 3 総会及び臨時総会の議決は全会一致を原則とする。合意をみない事項は各単位組織で独自に取り組む。 (経費及び会費) 第11条 2 会費は年間、団体1万円、個人3千円とし、年度当初までに事務局に納付する。</p>	<p>(名称) 第1条 本協議会は、「辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会」(以下、「<u>土砂全協</u>」という)という。 (構成・届出) 第4条 <u>土砂全協</u>の会員は、次により構成する。 <u>(1) 正会員 辺野古新基地計画の埋め立て用材の搬出が計画された地域及びその周辺の地域の団体</u> <u>(2) 協力会員 会の目的に賛同する団体及び個人</u> (役員及び職務) 第6条 <u>土砂全協</u>に次の役員を置く。 (1) 共同代表…若干名 (2) 幹事…<u>正会員から1名以上</u> (3) 顧問…若干名 (4) 事務局…事務局長…1人 事務局次長…1人 <u>事務局員…若干名</u> 財政…2名以内 (5) 会計監査…2名 (役員を選出) <u>第8条 役員は正会員から推薦され、総会で決する。</u> (総会) 第9条 2 通常総会は、毎年1回以上開催し、事業報告・決算、事業計画・予算、<u>役員選出、正会員の追加、規約改正などの重要事項を審議、決定する。</u> <u>4 総会は、正会員をもって構成する。協力会員は総会に出席し意見を述べる事ができる。</u> <u>5 総会の議案書は事前に正会員、協力会員に送付する。</u> (総会の議決方法等) 第10条 総会は、<u>正会員(代表する者)</u>の過半数の出席がなければ開くことができない。 2 やむを得ない理由により総会に出席できない<u>正会員は、書面をもって議決権を行使</u>することが出来る。 3 総会及び臨時総会の議決は<u>正会員</u>の全会一致を原則とする。合意をみない事項は各単位組織で独自に取り組む。 (経費及び会費) 第11条 2 会費は年間、<u>正会員1万円、協力会員3千円を基本とする。</u></p>

現行規約第2条以下の「協議会」は「土砂全協」と読み替える。

総会では、第4条の正会員以外の会員の名称(条文では「協力会員」)に異論あり、代表事務局で論議し最終的には役員会で決することになった。また、第11条の会費は、総会で議論されておらず、正会員以外の会員たる団体と個人の会費について代表事務局で検討中であり、おって役員会に諮りたい。

4 役員体制について

土砂全協の役員の任期は2年です。今年は改選の年になりますので、以下のように、2022～23年度の役員体制を提案し、承認されました。

共同代表	阿部悦子（環瀬戸内海会議）	大谷正穂（辺野古に土砂を送らせない！山口のこえ）
顧問	湯浅一郎（ピースデポ・環瀬戸内海会議）	北上田 毅（沖縄平和市民連絡会）
	末田一秀（環瀬戸内海会議）	
事務局長	松本宣崇（環瀬戸内海会議）	財政を兼任
事務局次長	八記久美子（辺野古土砂ストップ北九州）	
事務局員	未 定	
会計監査	五宝光基（辺野古に基地をつくらせない香川の会）	土居立子（環瀬戸内海会議）
幹 事	浦島悦子（島ぐるみ会議名護）	阿波根美奈子（本部町島ぐるみ会議）
	當島勝文（徳之島）	城村典文（自然と文化を守る奄美会議）
	碓山勇生（手広海岸を守る会）	日高紀登美（辺野古土砂搬出反対うきの会）
	磨島昭広（鹿児島に米軍はいらない県民の会）	安部真理子（海の生き物を守る会）
	歌野 敬（五島列島自然と文化の会）	富田恒子（小豆島環境と健康を考える会）
	間 司（「辺野古埋め立て土砂搬出反対」熊本県連絡協議会）	
	新田秀樹（広島と沖縄をむすぶDougワーカー）	大坪満寿子（南大隅を愛する会）
	溝渕裕子（辺野古に基地をつくらせない香川の会）	
	森 紘道（奄美市住用町市環境対策委員会）	
	柴田天津雄（辺野古のケーソンをつくらせない三重県民の会）	
	毛利孝雄（辺野古土砂搬出反対！首都圏グループ）	（現在の正会員 21 団体）

※ 「島ぐるみ会議・南風原」「普天間基地爆音訴訟団」「島ぐるみ八重瀬の会」「豊見城島ぐるみ会議」の4団体が、現在加盟を検討中です。



2022. 4. 28 広島市で街頭に立つ「広島と沖縄を結ぶDougワーカー」の仲間たち

辺野古への土砂搬出は許さない…安和棧橋、塩川港大行動に400名が 力合わせ2400台のダンプを減少

辺野古土砂ストップ北九州世話人 宗吉 信

安和棧橋(名護市)と塩川港(本部町)からの土砂搬出を止めようと、6月6日～8日まで「安和棧橋、塩川港大行動」が、実行委員会(共同代表・稲嶺進氏など)の呼びかけで行われました。

原田みき子事務局長は「初めて試みた行動でしたが、大成功しました。応援して下さった方々に心より感謝申し上げます。3日間の行動で、運搬船8隻分の土砂を減らしたことになります。新しい方の参加は、私たちの気持ちを新たに、希望を与えてくれます」と、語られていました。

辺野古土砂ストップ北九州から、世話人の宗吉信さんがこの行動に参加されたので、報告をお願いします。

■安和棧橋…「私たちは運転手さんと信頼関係を築いてきました」と地元のIさん

Iさんは朝7時から安和棧橋入り口で、入ってくるダンプの前を牛歩して進入を遅らせています。入り口を端まで渡り切った後、向かいの右折車線にずらりと並んでいるダンプの一番前で、次の右折順番を待っている運転手に向かって「遅ければ遅いほど良い(ガンジー)」と書いてあるプラカードを高く掲げ、深々と一礼します。



安和棧橋入口の様子

彼女と同様、毎朝7時前から来て、僕に行動の要領を教えてくれたMさんによると、「9時過ぎから応援で来る『島ぐるみ』の人たちの中には、『ダンプの運転手に頭を下げる必要なんてない』という人もいるけど、俺たちはダンプの運転手も仲間だと思ってやっている」とのこと。ダンプの

多くは、信号が一回変わる毎に1台しか右折して来ません。お互いに暗黙の了解があり、折り合いをつけながらやっているように見えます。「運転手も日当でやっているから、運ぶ回数が少なくなっても生活に影響はないよ」と、Mさん。

でも、こんな平和な時間は長くは続きません。8時半過ぎ、これまでの右折車両に加え、反対方向から左折して入ってくるダンプが表れ始めると、機動隊も出てきて混乱し始めます。

抗議行動の人数も増えていて、Iさんはマイクを持ちます。「こんな工事をさせる防衛局が悪いんです。運転手さんは喜んでこんな仕事をしているわけではないと思います。私たちは運転手さんと信頼関係を築いてきました。赤信号に変わってから、1台だけ右折で入ってくる。それが本来の姿です。最初の頃は運転手さんたちも対抗車両がない時は何台も右折しようとしていました。でも、今は赤信号に変わるまで待つ、1台だけ入ってくる運転手さんが増えました。後続のダンプも煽ることなく、待ってくれます」「危ない行動はやめてください!」という防衛局職員のマイクに向かっては、「一番危ないのは辺野古に基地を作ることです!」と返します。

■塩川港…あちらこちらで牛歩が

2日間、安和棧橋で行動した後、3日目は実行委員会の西浦さんの勧めで塩川港に行ってみまし

た。

安和は名護市で、抗議行動の人数も多いけど、塩川は本部町で、遠いこともあって、なかなか応援の人も足を延ばさないとのこと。安和に比べ港が広く、何隻も積み出しの船が接岸しています。

ダンプも道路から港の敷地に入って3方向に分かれるから、抗議行動をしたら効果がありそうな場所はいくらでもあり、人数が多ければ成果も大きそうです。

この日は抗議行動の人が多く、あちこちで牛歩して、ダンプは大渋滞していました。

■抗議の人の多い時間帯は宿で休憩し

沖縄は梅雨時で、毎日雨の中の行動でした。北九州で参加した経験のある人たちからは「暑さが半端じゃない」と聞いていましたが、むしろ日によっては雨具を着ていても寒いくらいでした。

大好きな沖縄ですが、コロナの流行以来、行くのを遠慮していました。でも、今回は現地からの呼びか

けなので堂々に行けました。確かにきつい行動です。でも、安和から歩いて30分の所に宿をとっていたので、抗議の人数の多い昼時は宿に帰って休み、朝の開始から昼前までと、人が減り始める3時以降に行動していました。

現地では、地元の人はもちろん、内地から移住して毎日この行動をしている人たちもたくさんいました。僕はたった3日間の行動です。北九州にいるからこそできることもたくさんあると思うのですが、たまには現地に行って行動を共にしたいとも思いました。

安和に向かって朝早く宿を出ると、アカショウビンの鳴き声が心を和ませ、海岸沿いを歩いていると、いかにも沖縄という海の風景、浜ヒルガオや熟したアダンの実もきれいでした。やっぱり沖縄はいい！（むねよしまこと）

※会報に名前を載せるという了解をとっていない方は、イニシャルにしています。



安波棧橋入口の様子



アダンの実



塩川港の様子。ダンプが運んできた土砂(この日は赤土)は、ベルトコンベアで船に積み込まれる

ストップ辺野古土砂北九州のニュース No.31 (2022年6月発行)に掲載された報告を、ご本人の了解を得て転載させて頂きました。

私たちは負けない！諦めない！

本部町島ぐるみ会議 原田みき子



真っ青な海に沢山の船が浮かんでいる。名護市の安和棧橋と本部町の塩川港から辺野古へ土砂を運ぶ船だ。本部町島ぐるみ会議が中心となつて、抗議活動と監視活動を始めて5年目となった。コロナ

騒動の倍近い年月が流れたことになる

国道をはさんで連なっていた山々は掘り進められ赤い肌を曝している。雌で切ったような横筋はダンプカーが走る道路だ。幾つもの横筋が頂上に向かって増えていき、間もなくてっぺんに届きそうである。

5年前に防衛局は住民説明会を開いて「ダンプは一日160台相当」と約束したのに、900台から1000台出す時もある。私たちは「ケガをしない、逮捕されない」のモットーのもと、牛歩戦術でダンプカーの前を横切り、船出を一分でも

二分でも遅らせたいと頑張っている。山で土砂を積んで港に降りてくるダンプカーは、雨の日は荷台から赤い水を流しながら走る。沖縄県の赤土防止条例違反にも当たる。始業も午前八時の約束が七時に始めるし、石だったはずなのに粘土のような赤土を運んでいる。住民への約束はことごとく裏切られ、私たちが現場で抗議しても知らぬ顔である。国の言うことが全く信用出来なくなるのは当然だ。説明会も知らぬまあと終わっていた。

私は時々「一寸の虫にも五分の魂」と叫ぶ。続けて

「沖縄の犠牲の上に胡坐をかくな！」

県民は二度とぎせいにされない！」と叫ぶ。ダンプのドライバーがうなずいたり手を振ってくれたりする。生活のために仕事をしているとは言え、沖縄県民の悔しい思いは同じなのだろう。軟弱地盤と活断層があつて完成は不可能なのに美しい青い海に土砂が投入されている。みすみす宝の海を潰しているに過ぎない。それも税金を使って……。元請の大成建設に菅前首相の三男が勤めているし、土砂で儲けている宇部興産は安倍元首相に繋がる企業だ。



沖縄県の安和棧橋(名護市)、本部町の塩川港からの土砂搬出を止めようと、6月6日～8日まで「安和棧橋、塩川港大行動」が展開されました。(写真は、辺野古土砂ストップ北九州のニュース 2022年6月号から転載させて頂きました)

絵に描いたような利権の構図ではないか。国民も目覚めないといけない。

6月6日から三日間、「安和棧橋・塩川港大行動」を実施した。400名の参加と搬出土砂船八隻分の減少は予想以上の成果だった。土砂全協からも応援を頂いた。「私たちは負けない！諦めない！」とチラシにも謳ったが、成果を得て意を強くしている。(2022.7.1)

安和棧橋、塩川港大行動 2022 御礼と報告

初めて試みた「安和棧橋・塩川港大行動」でした。おかげさまで大成功いたしました。応援してくださった方々、カンパを寄せてくださった方々に心より感謝申し上げます。安和棧橋・塩川港合わせて400名の参加と、2400台のダンプの減少は予想以上でした。3日間の行動で、運搬船8隻分の土砂の搬出を減らしたことになります。私たちの牛歩の一步一步が確実に工事をおくらせていることを実感します。今後も参加者が増えることを願うばかりです。続けていればいつか工事を止めることが出来るでしょう。

「ケガをしない、逮捕されない」が本部町島ぐるみ会議のモットーですが、機動隊員に押されて転倒した人が2人いました。沖縄を守るために活動している県民を、同じ県民の機動隊員が暴力的に規制していることに疑問を感じます。これでは県民の分断に拍車がかかり、いつまでたっても植民地状況から抜けられないでしょう。沖縄を不沈空母にしておきたい勢力は、常に県民の分断を図り、アメとムチでコントロールしようとしています。県民の7割が反対する辺野古新基地建設を止めることは民主主義国家なら当然なのに、裁判に訴えても門前払いされる私たち。安全に合法的に直接行動で示すことしか出来ないのに、沖縄県警による理不尽な規制は怒りを越えて悲しみを感ずります。

また、安和棧橋では道路運送法第95条違反の社名の無いダンプカーを十数台、塩川港では車検証不携帯のダンプ数台、車検切れ一台を市民が発見し警察に届けました。違法ダンプを野放しにしてきた防衛局、沖縄総合事務局、警察の責任は重大です。

ロシアのウクライナ侵攻を口実にして政府は軍拡をすすめています。日米の合同演習も激しくなる一方です。特に沖縄にはミサイル配備が進められ、核弾頭配備も懸念されています。まさに戦争前夜です。再び捨石にされる前に、県民は分断工作をはねつけ一丸となって命を守るために行動を起こさねばなりません。今回の大行動がきっかけとなって、より運動が広がることを願っております。あきらめないかぎり負けません。

安和棧橋、塩川港大行動 2022 実行委員会
共同代表：稲嶺進 鳥袋 義久 仲宗根 須磨子
事務局長：原田 みき子

安和棧橋、塩川港大行動 2022 会計報告

6月6日～8日まで実施された「安和棧橋、塩川港大行動2022」にカンパを寄せていただいた皆様に心からお礼申し上げます。ありがとうございました。

さて、この度の「大行動」の収支は以下の通りとなっております。

収入 カンパ、バス参加者の一部負担金 ￥2,086,500

支出 バスチャーター代、チラシ印刷代、通信費、送迎車経費、弁護士費用、その他 ￥799,057

残金 ￥1,287,443

なお、残金につきましては全額、本部町島ぐるみ会議による安和棧橋、塩川港における抗議活動の強化・拡大に使っていただくことになりましたので、ご了承ください。

復帰 50 年 経っても 戦争の呪縛から抜け出せない 沖縄

島尻郡南風原町 赤嶺一子

1) 復帰とは何だったか



復帰 50 年目、朝から雨が降っている。50 年前のその日も大雨であった。復帰しても前途多難であることを予測するような雨だったと私は思う。この節目の年に私

は、ただ日常の生活を過ごすだけである。いったいこの 50 年で何が変わったのだろうか。軍事基地は強化され、米兵の起こす事件は相変わらず、私たちが望んだ「本土並み」とは程遠く、戦争のための基地強化が止められない。

私は、極東最大と言われる「嘉手納エアベース」に 80% の土地を占拠された嘉手納で生まれ、育った。父が嘉手納出身で終戦後、本土の出稼ぎから戻ってきたら、父の生誕地である集落全体は、すでに嘉手納エアベースと化していた。自分の土地が戻るのを願って、基地の近くの借地に家を建て、生活の基盤を築いた。

2) 基地被害をもろに受ける

米軍嫌いの父は、幼い私たちにも沖縄が置かれている社会情勢を話してくれていた。沖縄は原子爆弾を搭載した浮沈母艦で我々沖縄の住民も乗組員の一人だ、米軍とは運命共同体で戦争が勃発したら、一緒に死ぬしかないと言われた。

基地があるがゆえに、私たちの命は常に脅かされていた。飛行機の墜落事故や米兵による事故や事件で理不尽に命を奪われた人は多く、そ

して幼い女の子や女性たちが米兵の餌食になった。親と寝ている女の子を拉致してまで、性的欲求を満たして、殺してしまうなど。女性の私たちは生きづらさを感じて育った。

私の家も例外ではなかった。小学校低学年のころ、酒に酔った米兵が寝ている私たちの家に入り込んで大騒ぎになった。たまたま、その日は沖縄の旧盆にあたる日で、父などはエイサーのため留守で、家には親戚の女性と子供たちだけが寝ていた。パニックになった祖母や母、伯母たちは姉、私、妹、従姉妹など女の子だけを抱きかかえ、弟など男の子を残して、隣の家に逃げ込んで事なきを得たという体験をした。

不幸中の幸いだったのが、その米兵が一人だったこと、酒に酔って足元がおぼつかなかったこと。隣近所の人たちが取り押さえて、未遂に終わったが、その米兵は全裸だった。軍の憲兵 (MP) に引き渡されたが、彼がその後どうなったかは定かではない。

また、中学三年の時は、同級生の家に嘉手納飛行場内で離陸に失敗した飛行機が破損し、その衝撃で、基地の近くの民家に燃料タンクが直撃し、同級生のお兄様と赤ちゃんが犠牲になった。クラスの全員が授業もそっちのけで事故現場である彼の家まで走っていったが、近寄ることもできなかった。

3) 復帰運動への動機

嘉手納エアベースは、常に世界の戦争と直結していることが如実にわかることが度々ある。中学の時、地球の反対側で起きている「キュー

バ危機」の時は、父親に戦争が起きるかもしれない、ソ連が攻めてくると告げられ、恐怖を感じた。その後、ベトナム戦争へと進んでいくが、爆音もひどくなり、米兵が戦場へのストレスからかいろんな事件が発生した。

基地に翻弄されて育った私は思春期になると全基地撤去を望む父の姿や高校の恩師である山内徳信先生（元読谷村長で参議院議員）の影響、瀬長亀次郎さんに感化され「本土並み復帰」を夢見る高校生となり、学校の授業をさぼって、嘉手納エアベースのゲート前で行われる祖国復帰運動のデモ行進などに参加、「本土並み復帰」「全基地撤去」と声を上げて運動に加わっていた。それが叶うと純真に思っていたのである。

ふたを開けてみたら、「本土並み」という言葉だけが耳に残り、何も変わらない沖縄に大きなショックを受け基地の反対運動からは距離を置いた。（基地包囲など県民大会は参加）しかし、再びこの活動に火をつけたのは、2001年9月11日ニューヨークでの同時多発テロ発生後の沖縄の置かれた現状である。

4) 再び活動へ

同時多発テロ発生後の翌日には、文部省の修学旅行に関する注意喚起の文書には沖縄県も含まれていたため、米軍基地があるがゆえに、修学旅行や沖縄への観光旅行が軒並みキャンセルされるなど「ヤマトンチュ」が沖縄へ来なくなり沖縄観光は危機的状況に陥った。

沖縄が紛争に巻き込まれると恐れをなしたのでしょうか。精神的にも経済的にも大打撃を受けた。「ウチナーンチュ」は見捨てられた感が、私の中にあつた。21世紀になっても、沖縄の現状が復帰前と変わらないということが証明された事件である。

この現実を目の当たりした時、自分の身は自分で守るしかない子供や孫、未来の沖縄のために、これ以上米軍や国の思う通りに、基地強化につながるようなことはさせてはいけなそうと思ひ、オスプレイの配置反対に宜野湾市へ通ひ、平成14(2002)年の7月からは辺野古新基地建設の反対運動で辺野古や高江に、今は安和棧橋への土砂搬入を遅らせる牛歩活動に足を運んでいる。復帰50年経っても本土並みへ至らず、出口の見えない活動へ。 (22.6.5)

馬毛島の軍事要塞化、断じて許されない！

馬毛島視察やむなく断念

6月2日を期限に、馬毛島軍事基地要塞化のための建設工事に向け環境アセスメント準備書へのパブコメが行われた。土砂全協の参加団体・個人が多数、種子島への戦闘機離発着による騒音について意見書を提出した。残念ながら意見書は無視された。島周辺のトコブシ漁の終了を条件に、8月16日から島唯一の港・葉山港のしゅんせつ着工に漁協の同意を取り付けたと報道された。

土砂全協では、第9回総会の鹿児島開催に合わせ「馬毛島視察」を企画したが、コロナ感染で総会のオンライン開催、視察は延期を余儀なくされた。7

月22～23日に再度計画したが、コロナ感染「第7波」で中止せざるを得なかった。

8月16日から着工すれば、工事を理由に船は葉山港に着岸を拒否されよう。今回が馬毛島上陸視察の最後のチャンスだったかと思うと残念でならない。と同時に、島の固有種マゲシカなどの生息が危ぶまれてならない。マゲシカは一地域の生物多様性の象徴的存在、また破滅させるのか！

(2022.8.1 事務局長 松本宣崇)

6月23日 「平和の礎」にて

— 一人ひとりの人生として記憶する —

辺野古土砂搬出反対！首都圏グループ 毛利孝雄



6月23日、「平和の礎」公園入口前でハンストを
決行したガマフヤー代表・具志堅隆松さん

10年ぶりになる6月23日の「平和の礎」。絶え間ない、そして世代を超えた人の波が続く。

公園入り口付近には、昨年続き具志堅隆松さんのハンストテント。政府は、未だに戦没者の遺骨を含む沖縄島南部地域からの土砂による辺野古埋立という、非人道的計画を撤回していない。

今年は、ハンストテントに「平和の礎」刻銘者読み上げのテントが加わった。6月12日から12日間全国1,500人余が24万余の名前を読み継いだ。私は、東京会場で友人5名と1,000名の読み上げに参加した。日本人310万、アジアで2千万。数値化された死ではなく、名前のある一人ひとりの人生として記憶する。あらためて、沖縄戦全戦没者を刻銘する「礎」の果たしている存在の大きさを実感する。全刻銘者の読み上げ、なぜもっと早くに気づけなかったのかと思う。不確定だった

名前を読み上げを1年をかけて確定し、読み上げは来年も行われる。

具志堅さんのハンスト支援集会では、マイクがまわってきたので、関東圏での自治体決議運動について報告させてもらった。

私は主に東京で自治体決議に関わってきたが、せめて沖縄に出征し戦没した方の遺骨が戻っているかの確認ぐらいはできないかと思い、関係部署に問い合わせを行ってきた。「平和の礎」への刻銘は、出身地自治体からの申請に基づいて行われているからだ。

*東京都一当時残っていた兵籍名簿などから刻銘申請したが、保存期間を過ぎたので処分し沖縄戦戦没者を確定する資料は持っていない。

*千代田区一遺族年金などの事務手続きを委託されているだけで、沖縄戦戦没者を確定する資料はそもそも持っていない。等など。

おかしな話ではないか！ 東京都も千代田区も、毎年行政が主催して「戦没者慰霊式」を行っている。慰霊している「戦没者」とは一体誰なのか？ 遺族に案内は送られていないのか？ 「私たちが享受している平和と繁栄は、戦没者の皆さまの尊い命と、苦難の歴史の上に築かれたもの」「犠牲者の御霊に哀悼の誠を捧げる」— 毎年、常套句となっている総理大臣らによる式辞の内実はこの程度のものである。

そしてそれは同時に、戦没者を「一人ひとりの人生として記憶する」努力を怠ってきた、私たち世代の戦後責任を問いただしてもいる。(22.7.11)



「南部遺骨土砂」自治体意見書採択の現状 採択は219自治体 全国自治体の1割を突破

7月27日現在、ガマフヤーを支援する会HPより

<沖縄県内> 30

沖縄県、南城市、那覇市、名護市、西原町、うるま市、南風原町、宜野座村、恩納村、北中城村、中城村、浦添市、豊見城市、八重瀬町、与那原町、読谷村、渡嘉敷村、座間味村、伊是名村、今帰仁村、国頭村、粟国村、久米島町、渡名喜村、与那国町、石垣市、大宜味村、糸満市、北谷町、宮古島市

<沖縄県外> 189 (囲み線は府県議会、網掛けは政令市議会)

(北海道) 江差町、更別村、剣淵町、美深町、占冠村、仁木町、八雲町、旭川市、北広島市、古平町、由仁町、赤平市、知内町、**札幌市** (青森県) 平内町、横浜町 (岩手県) 北上市

(宮城県) 涌谷町、**仙台市**、**宮城県** (秋田県) 井川町、五城目町、藤里町、にかほ市、小坂町、八郎潟町、大館市 (山形県) 三川町、上山市、村山市、庄内町、山形市、酒田市、米沢市、寒河江市

(福島県) 川俣町、猪苗代町、広野町、北塩原村、昭和町、喜多方市、三春町、石川町

(茨城県) 取手市 (栃木県) 那須町 (群馬県) 草津町、甘楽町 (埼玉県) 上尾市、秩父市、桶川市、嵐山町、鳩山町、杉戸町、**埼玉県**、神川町、羽生市、川越市、ふじみ野市、越生町、毛呂山町、富士見市、久喜市、新座市、蓮田市、越谷市 (千葉県) 市川市、白井市、八街市、館山市

(東京都) 小金井市、清瀬市、国立市、武蔵野市、小平市、立川市、三鷹市、中野区、府中市、東村山市

(神奈川県) 鎌倉市、中井町、逗子市、伊勢原市、葉山町 (山梨県) 北杜市 (新潟県) 加茂市、湯沢町 (長野県) 長野市、坂城町、南相木町、朝日村、長和町、南箕輪村、茅野市、大桑村、富士見町、南木曾町、小海町、小谷村、木島平村、松本市、豊丘村、麻績村 (石川県) 金沢市、珠洲市、内灘町、白山市、加賀市、志賀町、七尾市、能美市 (福井県) 越前市 (静岡県) 函南町、伊東市 (愛知県) 犬山市、蟹江町 (岐阜県) 関市 (三重県) 御浜町

(滋賀県) **滋賀県** (京都府) 向日市、南山城村、亀岡市、**京都市**、長岡京市、京都府、南丹市

(大阪府) 茨木市、吹田市、阪南町、河南市、**大阪市**、太子町、四条畷市、泉大津市、**堺市**、貝塚市、高石市、和泉市、豊中市、能勢町、高槻市、豊能町、柏原市、池田市、松原市、富田林市、熊取町、大東市 (奈良県) **奈良県**、宇陀市、広陵町、大和郡山市、三郷町、王寺町、安堵町、平群町、斑鳩町、川西町、河合町 (兵庫県) 西宮市、伊丹市、佐用町、高砂市 (和歌山県) 九度山町、かつらぎ町、上富田町

(鳥取県) 北栄町、倉吉町、南部町、伯耆町、琴浦町、大山町 (岡山県) **岡山市** (広島県) 尾道市、庄原市、**広島市** (愛媛県) 砥部町、内子町 (高知県) 土佐町、本山町、日高村

(福岡県) 八女市、**福岡市**、中間市、**北九州市**、うきは市、春日市 (熊本県) 宇城市

(鹿児島県) 東串良町

都道府県では奈良・京都・滋賀・埼玉・宮城の5府県議会、政令指定都市市では20市のうち、福岡・北九州・広島・岡山・大阪・堺・京都・仙台・札幌の9市議会がすでに意見書を採択しています。川崎市でも陳情に向け準備が進められています。

さあ～、あなたの番です。9月議会にあなたの住む町の議会へ「遺骨土砂が眠る土砂で辺野古の海を埋めない」意見書採択を求め署名活動を！そして議会へ陳情を進めよう！

県内2町議会で「遺骨混じりの土砂採取反対」意見書採択

☆☆☆ 砥部町、昨年12月議会で意見書採択 ☆☆☆

人形劇団主宰 立田卓也



一昨年7月、「ガマフヤー」具志堅隆松さんから全国の地方議会宛てに届けられた請願を受け、私は、地元九条の会や愛媛

県内で長く沖縄の基地建設反対に関わっている有志の方々からの学びと支援があつて、居住する砥部町町議会で請願書を2度提出しました。

初回9月議会には「辺野古新基地建設の埋め立てに南部の遺骨の残る土砂を使わないでほしい」との内容で提出。委員会傍聴の際、議員からは人道的理由には賛意も辺野古建設は普天間基地の代替で政府の決定事案、裁判でも建設反対の沖縄県が敗訴している等発言があり、継続審議となりました。

そこで次回議会へは“辺野古基地建設”の文言を除き、人道上の問題であるとの訴えを主に、遺骨収集を国が主体的に行う事との内容で新たに請願、そ

れならと賛成多数で可決され、地方自治法99条により関係機関に提出する運びとなりました。

私自身の来し方をたどれば、母方の祖父が南方に出兵しており、ジャングルをさ迷うなか捕虜になり、終戦翌年帰郷出来た時には、既にお墓が建っていたと聞いています。一体何をもって祖父を死亡としたのでしょうか。

残された骨と血の染込んだ土砂を埋め立てに使う、ましてや辺野古新基地の建設は次の戦争の礎です。これは私にとって戦争反省と併せ、宗教的倫理観や死生観が極めて問われる事柄です。既存の宗教界宗教者たちは、この事柄をどう受け止め、執り成そうとしているのか。今なお戦没者の遺骨を捜し続けてくれている人たちを前に、彼らの信仰がどこに在るのか、明らかにして欲しいです。(22.7.29)

☆☆☆ 内子町議会、3月議会で意見書採択 ☆☆☆

内子町議会議員 塩川まゆみ



私の祖父も沖縄で戦死しており、以前から沖縄戦没者遺骨問題には関心を持って動向を追っていました。

不思議なご縁で2021年5月より愛媛県内子町議会議員となったところ、10月に大阪の西尾慧吾さんから「人道的見地から沖縄戦戦没者の遺骨等を含む土砂を埋め立てに使用しないよう国に求める意見書」の採択を求める陳情が議会あてに届きました。

直近の議会であった12月定例会で私が紹介議員となって提出、2022年1月に付託された産業建設厚生常任委員会にて全会一致にて可決、そして3月定例会にて全会一致で可決されました。

この遺骨問題は残念なことに米軍基地問題との関連からか「政局化」されて、愛媛県議会をはじめ県内

では不採択、または議会内の回覧のみで審議されないケースが多くありました。

内子町議会も定数15名のうち与党系が13名でありながら、全会一致で採択されたのはとても画期的だと思います。あくまで戦没者遺骨の取り扱いの問題として、慰霊と人道上の観点から賛同してくれた同僚議員の皆さんの見識に敬意を表し、また深く感謝するものです。親族や知人を沖縄戦で亡くした人もおられ、自身の体験や戦争反対の思いを熱く語って下さいました。

内子町は沖縄県宜野座村と姉妹町村です。ここ数年はコロナで実施されていませんが、毎年のように文化や人の交流を促進する行事があります。楽しく華やかな部分だけではなく、沖縄の人たちの苦しみや痛みとも共にありたいと思います。(22.7.28)

東アジアで戦争を呼ぶのは誰か

— 中国包囲網・琉球弧での日米戦争計画 —

「ノーモア沖縄戦・えひめの会」運営委員 高井弘之

「戦争への導火線」を敷設する日米政府



いま琉球弧では、中国軍を攻撃するためのミサイル基地群が島々につくられ、米日に NATO 主要国を加えた合同軍事演習が中国の近くで、中国に圧力を加える

形で、頻繁に行われている。

中国軍を攻撃する「日米共同作戦計画」が両国間で策定・承認され、それに基づく実際の戦闘訓練も行われている。それは、米日の軍隊が琉球弧の島から中国艦船を攻撃した後、反撃から軍を守るため別の島に移動してまた攻撃する形を繰り返すものである。だが、日米軍が去った島には、住民が住んでいるままであり、ここに、中国軍の反撃のミサイルは飛んで来る。

つまり、これは、琉球弧を再び戦場—「捨て石」とし、奄美・沖縄の人びとの命の犠牲を当然の前提とする常軌を逸した「作戦」なのである。

「中国脅威論」の実像

巷では、中国を、何をしてくるかわからない「脅威の国—悪の国」とする見方が蔓延している。しかし、たとえば、相手国に脅威を与える軍事演習は、中国軍がアメリカ西海岸近くで行っているのではなく、日米欧の軍隊が中国の近くで行っている。

台頭する中国に追いつかれ、世界における自らの支配的地位を奪われるのではないかとの危機意識が高まった米政府は、中国を押さえつけるための外交的・経済的・軍事的包囲網の構築に走っている。米日政府が中心となって行っている「人権・民主主義」の名の下に中国非難も、世界における中国の地位・価値を失墜させようとする戦略の一つである。

「民主主義国家 対 専制国家」という対立構図を意図的に作り上げ、その「装い」のもとで、中国非

難・攻撃を正当化し、「反中国」の布陣を築こうとしているのである。

〈平和と共生の東アジア〉を！

これら、軍事的・外交的「中国包囲網」の構築は、東アジアにおける「戦争への導火線」敷設を意味する。

東アジアでの戦争を阻止するために、私たちは、この「包囲網」の進行を止め、「導火線」を撤去し、外交と対話によって、〈平和と共生の東アジア〉をこそ目指さなければならない。



※愛媛では、去る5月15日に、「ノーモア沖縄戦・えひめの会」の発足集会を行いました。また、『東アジアで戦争を呼ぶのは誰か—中国包囲網・琉球弧での日米戦争計画—』というタイトルの拙著・ブックレットを作成しました。ご一読していただくと幸いです。(22.7.31)

ブックレット「東アジアで戦争を呼ぶのは誰か —中国包囲網・琉球弧での日米戦争計画—」

[A5判 102頁/価格700円]

<ご注文先>

Eメール takaihiroyuki123@gmail.com

Tel 090-2783-4568

6月20日～27日 沖縄訪問記

辺野古土砂全協共同代表 阿部悦子

梅雨が明けたばかりの灼熱の沖縄に、6月20日から27日まで滞在しました。かつてない長逗留は体に堪え帰って寝込みましたが、収穫の多い旅でした。

●6月20日 うるま市を訪ねて



一昨年の防衛局の設計変更で、新たに辺野古への土砂搬出地になったうるま市の搬出現場を訪ね、さらに新たにミサイル基地が予定されている同じうるま市の米軍ホワイトビーチ併設の海上自衛隊の場所を確認した。「うるま市島ぐるみ会議」はこの間、「ミサイル展」を市内の全ての公民館で開催しておられたが、この日はお休みで残念。琉球弧の軍事要塞化の拠点候補うるま市の「島ぐるみ会議」の方々の緊迫感を強く感じた。

●6月21日 安波棧橋・塩川港で土砂搬出抗議



辺野古に投入される土砂搬出港の安波棧橋、塩川港で、トラックの搬入を遅らせるための牛歩を行う。私は2時間半にも満たない活動にも関わらず、相当に体力を消耗。早朝7時から20時まで、毎日

のように活動される本部町島ぐるみ会議の皆さんのことを思うと、自分のひ弱さが申し訳ない。ちなみに以前は土日はトラックの搬入も休みだったが最近では土曜日も行うという！

しかし、ほんの数人の牛歩でも、トラックの搬出台数を2割も削減できると知り、この活動の重要性を改めて確認した。「島ぐるみ会議名護」の方々も辺野古テント前やゲート前の活動を続けておられて、現場の闘いの大変厳しさを痛感する。

●6月22日 抗議船に乗る

早朝から海上でカヌーに伴走しつつ抗議を行っている「抗議船」に乗った。ここでも土砂の投入を遅らせるための活動が行われる。埋立てが進む様子を目の当たりにしながら日々闘う方々の厳しさと勇敢さに頭が下がる。

●6月23日 沖縄慰霊の日



南部に移動して平和祈念公園で「慰霊の日」の式典に参加。と言っても、他県からの機動隊の厳重な警備に阻まれて式場に近づくことさえできない。沖縄在住の人さえ近づけない厳重な警備体制の中、周辺の小高い丘から、「沖縄を戦場にするな！」「嘘をつくな」「岸田は帰れ」などの声が響いた。

デニー知事の「宣言」には、「台湾有事」「琉球弧の軍事要塞化」「政府の軍事費の倍増」への懸念は一切盛り込まれず私は大変物足りなかった。

平和祈念公園内では、具志堅隆松さんが断食をさ

れていて、ご挨拶する私に穏やかな表情で、「諦めず続けていきましょう」とおっしゃった。



来年度の総会開催予定地で活動されている「島尻島ぐるみ会議」の松井裕子さん（南風原島ぐるみ会議）、新垣龍治さん（写真右側・豊見城島ぐるみ会議）、神谷信夫さん（写真左側・島ぐるみ八重瀬会の会）ともお会いした。北上田さんや首都圏から来られた毛利さん、富田さんにも会えて嬉しかった。

● 6月24日 宮城秋乃写真展

ヤンバルの森で米軍からの返還跡地に放置された砲弾や生活用品などを拾い集めて米軍ゲート前で引きとり交渉を続ける宮城秋乃さんの「写真展」に。秋乃さんの2時間に及ぶお話をお聞きする。放射性物質など有害「廃棄物」が放置されて、沢山の生き物や植物が侵されている状況に一人で立ち向かい、時には米軍のゲート前を封鎖させるなどの活動をしておられる秋乃さんの存在の凄さを私はまだ認知していなかったことに気づく。

● 6月25日 復帰50年シンポジウム



「日本環境会議」と「沖縄環境ネットワーク」主催の復帰750年シンポジウムに参加。92歳の宮本憲一さんの戦後の77年間を歴史的に話された内容の濃い講演は驚き感銘を受ける。

桜井国俊先生は「今の沖縄にある問題」を分かりやすくお話になり、この映像は私たちも各地で使わせてもらえると感じた。

● 6月26日 「ノーモア沖縄戦の会」学習会

「ノーモア沖縄戦・命どう宝の会」主催の学習会。共同通信社客員論説委員の岡田充氏は次のように話された。「アメリカが仕組んだ戦争を、『台湾有事』という名で日米が戦争シナリオを作っている。ウクライナと同じく、台湾でもアメリカと中国の代理戦争になる。有事の時にはアメリカは米軍を投入せず、中国と台湾、日本のアジア人同士を戦わせるシナリオも準備して、またもや沖縄を捨て石にする作戦が遂行されている」・・・と。



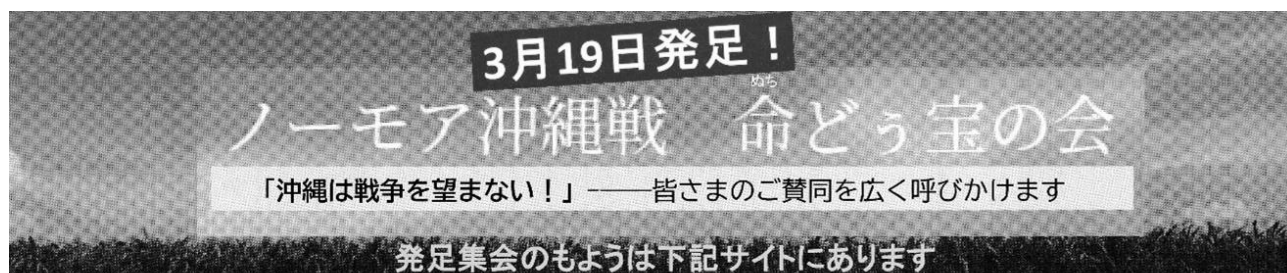
さらに恐怖を感じたのは、9月に施行される「土地規制法」が、沖縄の抵抗運動を「封鎖」する可能性がある。ヒロジさんが危機感を持って話された。9月の知事選の後、政府が「土地規制法」を根拠に広く規制線を張って座り込みや牛歩に参加しようとする人々を取り締まる可能性がある。そうすると、辺野古ゲート前、安和棧橋、塩川港も、そして海上の阻止行動さえも・・・と身震いするほどの恐怖を感じた。今後の土砂全協としてもしっかりと議論、学習し、行動していかなければと思う。

6月26日の「ノーモア沖縄戦 命どう宝の会」の当講演会は、YouTubeで見ることができます。

なお、「ノーモア沖縄戦・えひめの会」については15頁、高井弘之さんの論考を参照下さい)

今回も沖縄で沢山の皆様にお世話になりました。7泊のうち5泊は友人のお宅に泊めて頂き、各地でご親切にして頂いたこと、感謝しかありません。土砂全協で知り合った沖縄の方々、全国の方々との出会いと交流が、私の人生を豊かにして下さっていることに感謝申し上げます。(22.7.29)

3月19日、ノーモア沖縄戦 命どう宝の会 発足



平和を望む全国の声を集結し、戦争への道をストップ！

ご賛同、ご支援を呼びかけます

<https://nomore-okinawasen.org>

ノーモア沖縄戦 命どう宝の会

nuchidu.takara.okinawa@gmail.com

<共同代表>

石原昌家、具志堅隆松、ダグラス・ラミス、宮城晴美、山城博治

《会設立呼びかけ人》 新川明（沖縄タイムス元社長） 石原昌家（沖縄国際大名誉教授・沖縄戦史） 桜井国俊（沖縄大元学長・環境） ダグラス・ラミス（国際政治学・元海兵隊員） 前泊博盛（沖縄国際大教授） 木村朗（鹿児島大名誉教授） 伊佐真一（沖縄近現代史家） 大城貞俊（作家） 宮城エミ子（元琉球大教員） 与那覇恵子（名桜大非常勤講師） 具志堅隆松（遺骨収集ボランティア） 平良啓子（対馬丸語り部） 謝花悦子（伊江島反戦平和資料館館長） 宮城晴美（沖縄女性史家） 三上智恵（映画監督・ジャーナリスト） 山城博治（平和運動家） 與那覇有羽（民具作家） 新垣仁美（若者メンバー） 小波津義嵩（若者メンバー） 新垣邦雄（団体職員）

沖縄を再び“いくさば（戦場）”にさせないために

沖縄を二度と戦場にしないための諸活動を目的に有志が立ち上げた「ノーモア沖縄戦 命どう宝の会」は3月19日、発足しました。当会の賛同人の募集、カンパの募金も行いますので、併せてご協力、お呼びかけをお願いします。

台湾有事の平和的解決を あなたと未来の命を守るために

発足集会で講演した新垣毅氏（琉球新報報道本部長）は、米軍の核搭載可能な中距離ミサイルの沖縄・本土への配備計画をスクープ。台湾有事への日米対処について「沖縄を戦場に巻き込み、偶発的な衝突が核戦争にエスカレートしかねない」と警鐘を鳴らしています。日米の南西諸島ミサイル要塞化の危険性やロシアのウクライナ侵攻が沖縄周辺に及ぼす影響、政府の専守防衛を逸脱する敵基地攻撃能力保有の動き、安倍元首相らの「核共有論」により沖縄に米軍核ミサイルが再配備される懸念を訴えました。

当会の活動を拓げていくためにも、積極的なご支援をお願いいたします。

ご支援は、ゆうちょ銀行の口座で受け付けています。（一口500円から）

【ゆうちょ銀行から振込される場合】

記号 17040 番号 01742091 名義 アラカキヒトミ（会計担当）

【ゆうちょ銀行以外の金融機関から振込される場合】

店名 七〇八（ナナゼロハチ） 店番 708 預金種目 普通

座番号 0174209 名義 アラカキヒトミ（会計担当）



沖縄からの便り
《連載 No.16》
いちやりば
ちよーでー

大激戦を制した 参議院選(沖縄選挙区)から 県知事選勝利へ!!

ヘリ基地いらない二見以北十区の会 浦島悦子



大激戦だった参議院選(7月10日投開票)沖縄選挙区。自民党が圧勝した全国の一人区で最後まで勝敗が決まらず、追いつ追われつの開票速報にハラハラし、ようやく結果が出たときは

日付が変わっていた。「オール沖縄」候補(無所属・現職)伊波洋一氏 27万4235票、自民党公認候補(新人)古謝玄太氏 27万1347票。文字通り薄氷の勝利だった。

今回、自民党は沖縄出身の元総務官僚、38歳の新人候補者に、これまでの選挙では曖昧にしていた「辺野古新基地容認」を明言させ、岸田首相をはじめ政府要人を次々と沖縄に送り込み、「新基地反対」の民意を徹底して押し潰そうと狙っていることを、ひしひしと感じた。今年に入って行われた県内4市長選で自民党推薦候補が勝利した勢いを借り、今参議院選で自民党候補が当選すれば「新基地容認が民意」だと公言し、2か月後の知事選で「新基地容認」もしくは「推進」の知事を誕生させ、基地反対運動の息の根を止めるのが、政府の描くシナリオだろう。

そんな並々ならぬ危機感を持って、私も今回、宣伝カーでの街宣、電話掛け、スタンディング、女性集会の計画・実施等々、やれる限りのことをやった。新基地反対運動への影響に加え、「中国の脅威」や「台湾有事」を口実に進む南西諸島の軍事要塞化・訓練激化に拍車がかかり、沖縄が再び戦場にされるのではないかという危機感、「戦争はすべてを破壊する。平和でこそ暮らしも経済も成り立つ」ことを訴えた。

政府の目論見が成功せず、ひとまずの勝利に安堵した(名護市では、1月の市長選挙の際の約5000

票差を約500票差に縮めることができた)が、票差は3000票に届かず。前回の票差約10万票はどこへ行ったのだろうか…?? 古謝候補は、「若さ」を武器にした「即戦力」「明るい未来」を打ち出し、40代以下の多くの支持を得た。沖縄が抱える様々な問題を解決してこそ「明るい未来」が拓けるはずだが、(基地や戦争のような暗い)問題には蓋をして、バラ色の未来を見たい傾向に危惧を感じざるを得ない。「オーガニック右翼」と言われる参政党が県内で約2万票を獲得したことも気になる。自公政権への反対票が「オール沖縄」にではなくそういうところに流れたのか? 10年後、20年後の沖縄はどうなるのだろうか…?

沖縄選挙区はかろうじて持ちこたえたが、全国的には惨憺たる結果だった。安倍元首相の銃撃・死亡事件が選挙にどれだけ影響したのかわからないが、岸田政権の言う「民主主義への挑戦」「選挙への冒涇」という言葉はそっくりお返ししたいものだ。沖縄をいじめ抜き、日本の政治を急激に劣化させた安倍氏については、彼が理不尽な形で亡くなったからといって美化・賛美する風潮には同調できないし、「国葬」などとんでもない!!と思う。

この国を覆う暗雲がますます厚くなる中で、息つく間もなく沖縄県知事選が迫っている(8月25日告示、9月11日投開票)。沖縄の命運がかかった絶対に負けられない選挙だ。玉城デニー知事の再選をめざしてヌチカジリ(命の限り)頑張りたい!!

(22.7.22)





◆ガマフヤー具志堅隆松さんハンスト決行

✿ 「ハンストに連帯する集い」

と き 8月13日(土) 19:00～

ところ 文京シビック地下一階

アカデミー文京リクリエーションホール

参加費 500円

✿ ハンガーストライキ

と き 8月14日(日)・15日(日)

08:00～18:00

ところ 靖国神社前

14日 具志堅さんと稲葉博さんがハンスト

15日 稲葉さん(具志堅さんは未定)

◆辺野古土砂ストップ北九州第8回定期総会

と き 8月20日(土) 13:30～

ところ 男女共同参画センター

小セミナーホール(北九州市)

◆STOP! 辺野古新基地建設!

大阪アクション・結成8周年集会 & デモ

と き 8月21日(日) 14:00～

ところ クレオ大阪東ホール

(大阪市城東区鳴野西2-1-21)

講演「軍事要塞化進む琉球列島

～ 『復帰』50年と沖縄の自己決定権」

講師 新垣 毅氏(琉球新報報道本部長)

資料代 800円

主催 STOP! 辺野古新基地建設!

大阪アクション

◆吉田敏浩講演会

米国言いなりの日本をつくった

「日米合同委員会」とは何か

と き 9月10日(土) 13:30～

ところ 北九州市商工貿易会館・多目的ホール

(北九州市小倉北区古船場町1-35)

講師 吉田 敏浩 さん(ジャーナリスト)

チケット代 1000円

主催 辺野古土砂ストップ北九州

(問合せ 八記 080-1730-8895)

《ノーモア沖縄戦・えひめの会 連続学習会》

◆ 9月24日(土) 13:30～

「戦争への導火線」を敷設した安倍政権

— 彼の政治を<市民の立場>で検証し、

国葬に反対する —

講師 与那覇恵子さん(名桜大学元教授)

◆ 10月29日(土) 13:30～

日米が準備する「対中戦争」をどう止めるか

— 「アメリカが作り出す戦争」の

検証、そして、国際民衆連帯 —

講師 谷山博史さん(国際ボランティアセンター顧問・

土地規制法廃止アクションネット事務局)

会場 いずれも松山市民会館小ホール

資料代 800円 (演題はいずれも仮題です)

問合せ 阿部悦子 TEL 090-3783-8332

(加盟団体、友好団体からの情報を転載しました)

編集後記

2022年夏真っ盛り。具志堅隆松さんらのお働きで、沖縄南部の遺骨土砂の採取中止を求める意見書が7月27日現在、全国の219議会で採択、各自治体で更なる努力を続けたいと思います。(松本)

《辺野古土砂搬出反対全国協議会ニュース 22》 2022年8月10日

発行責任者…全国連絡協議会共同代表 阿部悦子(環瀬戸内海会議) hibi_etsuko@yahoo.co.jp

大谷正穂(山口のこえ) masaho1954@gmail.com

編集…松本 宣崇(環瀬戸内海会議)

nmatchan@ms8.megaegg.ne.jp

…八記久美子(辺野古土砂ストップ北九州)

kanpanera888k@gmail.com

HPアドレス…<http://stophenoko.html.xdomain.jp/>

事務局…〒700-0973 岡山市北区下中野318-114 松本方 TEL・fax 086-243-2927

連絡先…〒794-0026 愛媛県今治市別宮町9-7-4 阿部悦子 TEL 090-3783-8332

振込先…郵便振替 番号 01750-8-144158 名義 辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会